

平成22年度第1回瀬戸内海東部カタクチイワシ漁況予報

－ 別表の水産関係機関が検討し独立行政法人水産総合研究センター
瀬戸内海区水産研究所がとりまとめた結果 －

今後の見通し(2010年5月～6月)のポイント

(1) 来遊量：

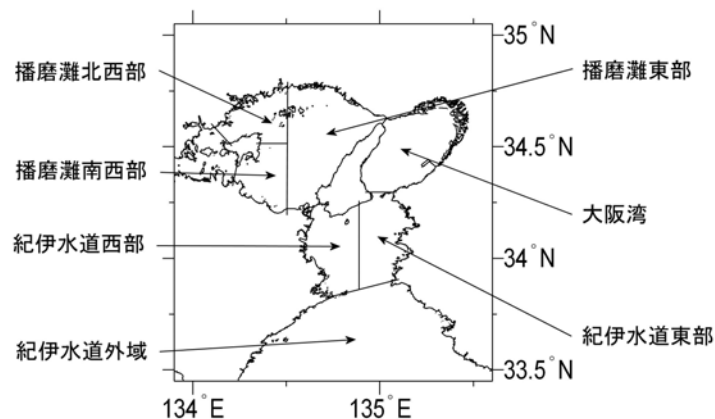
シラスは平年を下回る。

(2) 漁場：

紀伊水道では不漁であった2009年、平年を下回る。

大阪湾及び播磨灘東部では不漁であった2009年を上回るが、平年を下回る。

播磨灘南西部・北西部では好漁であった2009年、平年を下回る。



問い合わせ先

水産庁 増殖推進部 漁場資源課

担当：沿岸資源班 香川、今井

電話：03-3502-8111(内線6800)、直通電話：03-6744-2377、ファックス：03-3592-0759

当資料のホームページ掲載先URL

<http://www.jfa.maff.go.jp/j/press/>

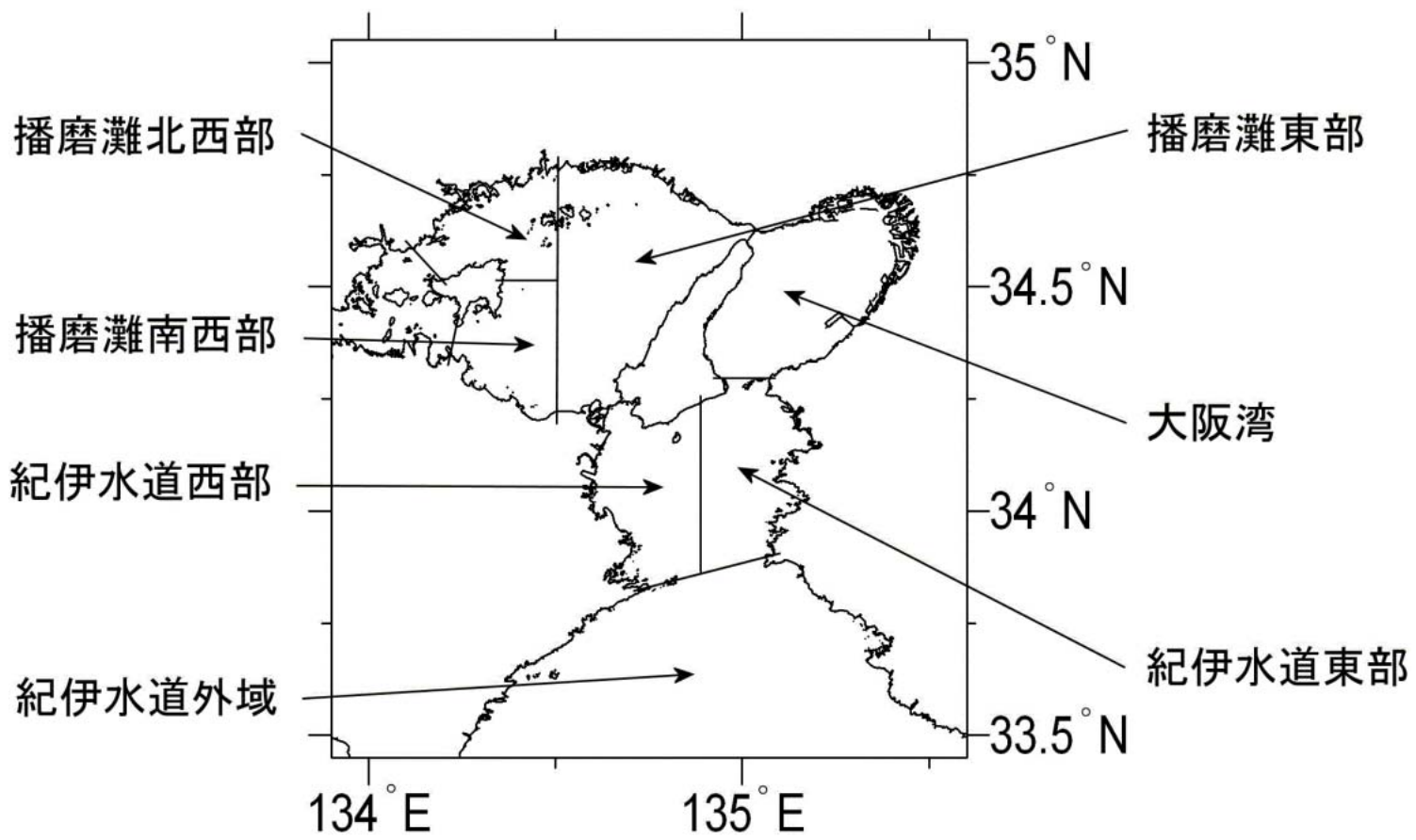
独立行政法人水産総合研究センター 瀬戸内海区水産研究所 業務推進部

電話：0829-55-3406、ファックス：0829-54-1216

当資料のホームページ掲載先URL

<http://abchan.job.affrc.go.jp/>

<http://feis.fra.affrc.go.jp/>



平成22年度第1回瀬戸内海東部カタクチイワシ漁況予報

1. 今後の見通し（2010年5月～6月）

シラス（本年春季発生群）

紀伊水道では不漁であった2009年、平年を下回る。

大阪湾及び播磨灘東部では不漁であった2009年を上回るが、平年を下回る。

播磨灘南西部・北西部では好漁であった2009年、平年を下回る。

標本漁協、もしくは標本船のシラス漁獲量を各海域の指標とし（図1～3）、特に断りがない場合、1985～2008年の平均値を平年値とした。

2. 漁況の経過（2009年4月～2010年4月）および今後の見通しについての説明

(1) シラス漁況

紀伊水道東部（和歌山県側）では2009年の漁獲量は前年の82%、平年の59%であった。2009年5～6月の漁獲量は前年の204%、平年の71%であった。2010年の漁は例年よりやや遅い4月15日に始まったが、4月22日現在、低調である。なお紀伊水道外域での漁は4月21日現在、好調である。

紀伊水道西部（徳島県側）では2009年の漁獲量は前年の110%、平年の47%であった。2009年5～6月の漁獲量は前年の248%、平年の50%であった。2010年の漁は4月24日ごろから始まった模様である。

紀伊水道北部（兵庫県側）では2009年の漁獲量は前年の97%、平年の92%であった。2009年5～6月の漁獲量は前年の600%、平年の92%であった。

大阪湾（大阪府）では2009年の漁獲量は前年の116%、平年の111%であった。2009年5～6月の漁獲量は前年の88%、平年の56%であった。

大阪湾（兵庫県）では2009年の漁獲量は前年の90%、平年の95%であった。2009年5～6月の漁獲量は前年の108%、平年の54%であった。

播磨灘東部（兵庫県側）では2009年の漁獲量は前年の72%、平年の77%であった。2009年5～6月の漁獲量は前年の120%、平年の54%であった。

播磨灘南西部（香川県側）では2009年の漁獲量は前年の121%、平年（1989～2008年の平均値）の158%であった。2009年5～6月の漁獲量は前年の414%、平年の249%であった。

播磨灘北西部（岡山県側）では2009年の漁獲量は前年の114%、平年（2000～2008年の平均値）の275%であり、2000年以降で最も多かった。2009年5～6月の漁獲量は前年の121%、平年の271%であった。

(2) 日向灘～紀伊水道での産卵量

中央水産研究所、瀬戸内海区水産研究所がとりまとめたカタクチイワシの産卵状況では2010年3月になって日向灘～紀伊水道外域まで広く産卵が認められた。日向灘～紀伊水道外域における1～3月の合計産卵量は108兆粒（前年比44%、平年比98%）であった。

和歌山県農林水産総合技術センター水産試験場と徳島県立農林水産総合技術支援センター水産研究所が行った定線調査では、2010年2～3月の紀伊水道外域におけるカタクチイワシ卵仔魚密度は低かった。卵密度は2月に11粒/m²（前年比31%、平年比30%）、3月に18粒/m²（前年比34%、平年比12%）であり、仔魚密度は2月に1個体/m²（前年比5%、平年比8%）、3月に7個体/m²（前年比19%、平年比19%）であった。紀伊水道での卵密度は2月に前年同様0粒/m²（平年値0.02粒/m²）、3月に0.2粒/m²（前年比108%、平年比14%）であり、仔魚密度は2月に前年同様0個体/m²（平年値0.1個体/m²）、3月に9個体/m²（前年比60%、平年比114%）であった。

(3) 今後の見通しの説明

シラス（本年春季発生群）

4月25日現在、黒潮は室戸岬～潮岬沖で接岸し、紀伊水道外域には黒潮系暖水の波及が見られる。各岬における黒潮離岸距離の変動傾向と水産総合研究センターの海況予測モデル(FRA-JCOPE)の情報を併せて考慮すると、黒潮は5～6月にかけて室戸岬～潮岬で接岸して推移すると予測される。

紀伊水道の春季シラス漁は日向灘～紀伊水道外域での産卵量と来遊環境に主に依存する。来遊環境は良いと考えられ、日向灘～紀伊水道外域の1～3月の合計産卵量は平年並みである。しかしながら紀伊水道外域でのカタクチイワシ卵仔魚密度は2009年、平年を下回り、紀伊水道でも卵仔魚密度は高くないことから、不漁であった2009年、平年を下回ると予測される。

大阪湾および播磨灘の春季シラス漁は日向灘～紀伊水道外域での産卵量、紀伊水道および紀伊水道外域でのシラス現存量、来遊環境に主に依存する。来遊環境は良いと考えられ、日向灘～紀伊水道外域の1～3月の合計産卵量は平年並みである。しかしながら紀伊水道外域～紀伊水道の卵仔魚密度は総じて低く、紀伊水道でのカタクチシラス漁も低調であることから、大阪湾、播磨灘東部では不漁であった2009年を上回るが、平年を下回ると予測される。播磨灘南西部・北西部では上記の理由に加え、2009年が内海発生群の加入により好漁であったことから、2009年、平年を下回ると予測される。

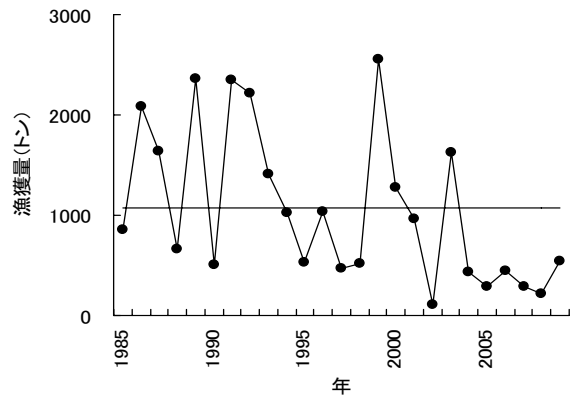
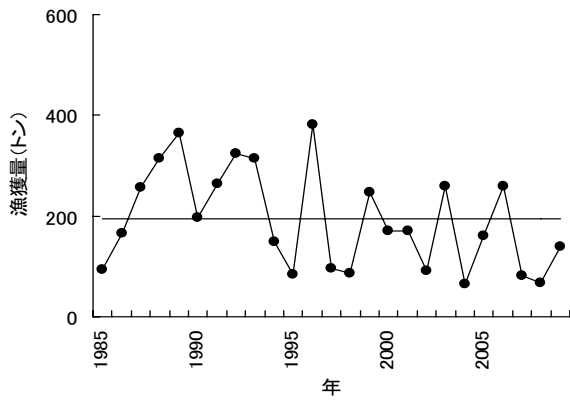


図1 紀伊水道東部（和歌山県側：左図）および紀伊水道西部（徳島県側：右図）の標本漁協における5～6月のシラス漁獲量（実線は平年値を示す）

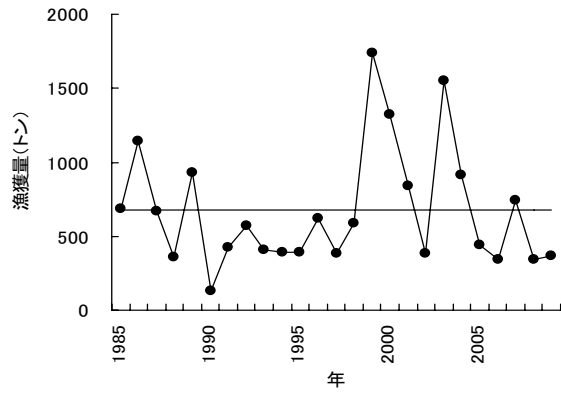
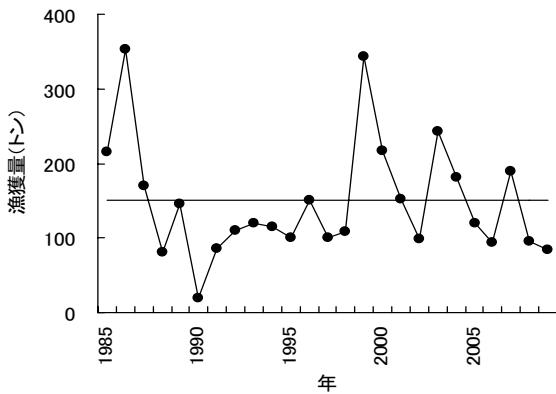


図2 大阪湾（大阪府：左図、兵庫県：右図）の標本漁協における5～6月のシラス漁獲量（実線は平年値を示す）

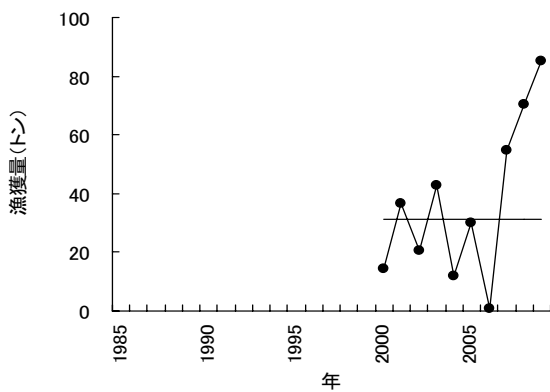
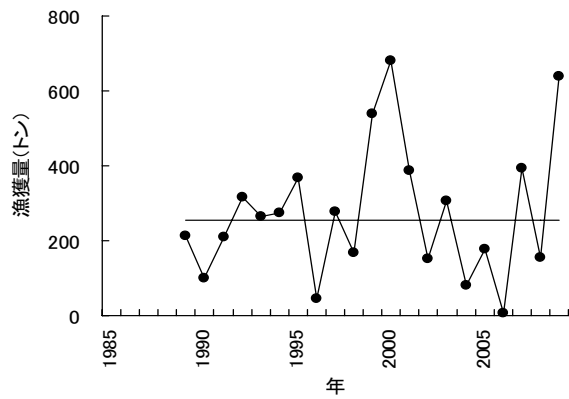
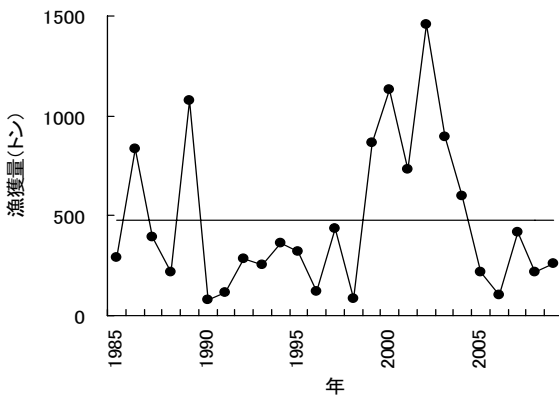


図3 播磨灘東部（兵庫県側：左上図）、播磨灘南西部（香川県側：右上図）の標本漁協における5～6月のシラス漁獲量、および播磨灘北西部（岡山県側：左下図）の標本船における5～6月のシラス漁獲量（実線は平年値を示す）

参画機関

和歌山県農林水産総合技術センター 水産試験場	香川県水産試験場
大阪府環境農林水産総合研究所 水産技術センター	徳島県立農林水産総合技術支援センター 水産研究所
兵庫県立農林水産技術総合センター 水産技術センター	水産庁 増殖推進部 漁場資源課
岡山県農林水産総合センター 水産研究所	独立行政法人 水産総合研究センター 中央水産研究所 瀬戸内海区水産研究所